

小説『傾城の恋』に見られるゼロ照応について —三人称代名詞との比較から—

譚 昕

1. はじめに

ある文連続がばらばらの文の集まりではなく、一つの意味的まとまり（テキスト）として展開するには、結束性が重要な役割を果たす（Halliday1994, 庵功雄2007）。テキストの結束性を研究する方法として、Halliday&Hasan1976は、「この文が結束性によって関係付けられているとすれば、いくつの方法によってであるか。その文のどの項目が結束関係に組み込まれているのか。それぞれの例において、結束性のタイプは何で、距離はどれくらいか」を挙げている。一方、テキストの結束性を維持する手段の一つに照応がある。言い換えると、照応は文脈を形成する役割を果たすものである。また、先行文に出現した構成要素（先行詞）が後続文に繰り返し出現した場合、先行文の要素に照応する後続文の構成要素（照応詞）は、そのままの形で反復されるより、むしろゼロ形式で現れることが多い（今井1992）。このような言語現象をゼロ照応（「 \emptyset 」で記す）と呼ぶ。

- (1) 流蘇本来天天出去惯了, \emptyset_1 忽然闲了下来, \emptyset_2 在徐太太面前交代不出理



由, \emptyset_3 只得伤了风, \emptyset_4 在屋子里坐了两天。 （『傾城の恋』）

（流蘇はそれまで毎日外出していたのが急に暇になってしまったが、徐夫人には言いにくいので、風邪をひいたということにして、二、三日部屋に引きこもった。）

(1)のように、ゼロ照応¹⁾は、中国語においてよく見られる言語現象であり、とりわけ主語や目的語の位置において頻繁に見られる(陈平1987)。

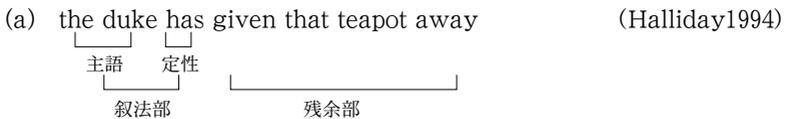
本稿では、中国語の主語に現れたゼロ照応の結束関係のあり方、明示的先行詞との距離について、ゼロ照応と対照的な照応表現である三人称代名詞²⁾との比較を通して考察し、主語に現れたゼロ照応の機能を明らかにすることを研究目的とする。また、分析の基準単位として、「節」を取り入れて考察を進めていく。

2. 先行研究

2.1 テキストの基本単位

テキストを分析するためには、テキストを構成する基本単位を定義する必要がある。

一般にテキストの基本単位は文だと思われることが多いが、Halliday1994によると、通常ピリオドによって終わる単位「文(sentence)」は、書き言葉にのみ適用されるものであって、話し言葉の単位とは考えられていない。そこで、話し言葉にも適用できるように、(a)に示したような、主語(subject)と定性(finite)から成る叙法部(mood)、及びそれ以外の文法要素から成る残余部(residue)によって構成される単位に対して、「節(clause)」という用語を用いている。



中国語では、英語の主語と定性に当たる要素が必ずしも明確ではないため、Hallidayの定義による節を直接使用することは難しい。中国語における節³⁾について、以下のような観点がある。

陈平1987は、句読点を節区切りのマーカーとしており、コンマ、ピリオド、クエスチョンマーク等によって区切られる成分が節である、と述べている。

宋柔1992は、コンピューターによる言語処理の角度から、節をコンマ、ピリオド、セミコロン、感嘆符、クエスチョンマーク、コロン等の句読点で分けられる語句と定義する。つまり、宋柔は陳平と同じく、節の区切りにあたって句読点を唯一のマーカーとする。

徐赳赳2003は、従来の「句読点説」とは違って、テキストの照応研究において、照応の特性を表すことのできる節単位を導入しなければならないと指摘する。そのため、まず主述構造（零主語を含む）を主要な基準とし、その次にポーズと機能も合わせて判断すべきだと説明している。

殷国光他2009は、古代中国語における節について、音声のポーズによって区切られて、且つ、主要部（述部中心語）が含まれている独立した断片が、節だと考えている。

本稿では、上述した節に関する観点を参考に、次のように考える。節は、基本的に主語・述語・目的語から構成され（零主語と零目的語を含む）、隣接する他のまとまりと区切りをつけられるものであると見なす。また、書かれたものにおける句読点について、そのつけ方は主観的であり唯一ではないと考えるが、分析の便宜上、他のまとまりと区別するための形態的マーカーと見なす。

2.2 中国語におけるゼロ照応の制約要因

今井1992は、陳平1987の「先行詞の連続性」によるゼロ照応制約の研究に基づき、日中対照の視点から、中国語においては先行詞と後続文の内容との意味関係に依存すること、主題が一定するよりむしろ次々と変わり得る傾向があることについて検証した。

殷国光他2009は、動詞述語文における主語のゼロ照応現象について、《左传・隐公》を中心に分析を行った。まず、ゼロ照応と先行詞との距離について、隣接する節である場合を1、節を1つ越える場合を2、のように数え、距離値が1であるゼロ照応は全体の85%を占めており、距離値が1より大きい場合のゼロ照応は全体の15%を占める。つまり、先行詞との距離値が小さいほどゼロ照応の出現率は高く、先行詞との距離値が大きいほどゼロ照応の出現率は低いこ

とを指摘した。

柴田2013は、中国語を母語とする被験者による実験を通して、登場人物が複数の場面に比べて1人の場面ではゼロ照応が好んで用いられる、ということを示した。その理由について、登場人物が1人であれば、指示対象を明示しなくても曖昧性が生じないためであると指摘する。

以上、中国語の主語におけるゼロ照応の振る舞いについての研究は、本稿の研究に一つの方向性を与えてくれるものである。本稿では、上述の研究を踏まえながら、節頭主語に現れたゼロ照応とその機能について考察を行う。

3. 分析材料である『傾城の恋』の考察

3.1 分析材料と分析方法

本稿では以上にまとめた先行研究を手掛かりに、中国語の主語位置に現れたゼロ照応とその機能を探るために、小説『傾城の恋』⁴⁾を用いて分析する。『傾城の恋』を分析材料として選んだのは、登場人物の多さおよび小説の適切な長さが考察しやすいからである。分析方法としては、『傾城の恋』に使用されたゼロ照応主語および明示的三人称代名詞主語のデータを収集し、ゼロ照応と三人称代名詞の使用状況を比較することによって、節頭主語ゼロ照応の特徴と機能を解明する。また、本稿はテキストの結束と節頭主語の関係に着目するため、「節」を考察の基準単位としてデータを収集し分析を行う。

3.2 用例分析

以下は、『傾城の恋』から収集したゼロ照応主語および三人称代名詞主語のデータをもとに、それぞれ登場人物の数別に見られるゼロ照応の振る舞い、明示的先行詞との距離値に見られるゼロ照応の連続性、という2つの角度から節頭主語に現れたゼロ照応について考察を行う。

3.2.1 登場人物の数別に見られるゼロ照応の振る舞い

登場人物⁵⁾の数別に、節頭主語に現れたゼロ照応および三人称代名詞の使用状況は、表1に示す通りである。

表1 登場人物の数別から見るゼロ照応と三人称代名詞照応の使用状況

	登場人物=1人	登場人物=2人	登場人物≥3人
ゼロ照応の数 (%)	217 (77.0%)	90 (35.7%)	26 (63.4%)
三人称代名詞照応の数 (%)	65 (23.0%)	162 (64.3%)	15 (36.6%)
合計 (%)	282 (100%)	252 (100%)	41 (100%)

まず登場人物の数別に使用されたゼロ照応の数は、それぞれ登場人物が1人の場合は217例、2人の場合は90例、3人以上の場合は26例である。登場人物が1人である場合の占める割合は圧倒的だということが分かる。登場人物の数が少ないと、照応が単純で曖昧性が生じにくいいため、先行詞の後続文に対する連続性が最も強く、ゼロ照応が現れやすいと考えられる。(2)と(3)はそれぞれ登場人物が1人と複数の例である。

- (2) 流蘇便忙着整理行装。虽说 ϕ_1 家无长物， ϕ_2 根本没有什么可整理的， ϕ_3 却也乱了几天。 ϕ_4 变卖了几件零碎东西， ϕ_5 添置了几套衣服。徐太太在百忙之中……

(流蘇はあわてて旅行の準備にとりかかった。これといった財産もなく、整理すべき物などはじめからなかったが、それでもやはり何日ははてんでこまいした。こまごました物を少し売って、何着か衣服を新調した。徐夫人は忙しいなか…)

- (3) 徐太太 ϕ_a 双管齐下， ϕ_{a1} 同时又替流苏 ϕ_b 物色到一个姓姜的 ϕ_c ， ϕ_{c1} 在海关里做事， ϕ_{c2} ⁶⁾新故了太太 ϕ_d ， ϕ_{c3} 丢下⁷⁾了五个孩子， ϕ_{c4} 急等着续弦。

(徐夫人はこの話と一緒に、流蘇のためにも姜という男を見つけてきた。税関に勤めていて、妻を亡くしたばかり。五人の子供を抱えてすぐにも後添いを求めている。)

(2)では、登場人物は“流蘇”1人のみであり、後続する $\phi_1 \sim \phi_5$ はともに先行詞主語“流蘇”を指し示す。また、1つ目の明示の主語“流蘇”と次の明示の主語(徐太太)の間に5つの節頭主語ゼロ照応を用いられたことから、曖昧

性が生じにくい内容の場合、中国語の主語はゼロ照応形式で現れやすいことが分かるであろう。(3)では、登場人物は“徐太太”、“流蘇”、“姓姜的”、“(姓姜的)太太”の4人であり、5つの節頭主語にゼロ照応表現が用いられている。照応が複雑であり、一目でそれぞれの指示対象の同定が明らかではないため、コンテキストに基づいて分析してみると、 \emptyset_{a1} が“徐太太”、 $\emptyset_{c1} \sim \emptyset_{c4}$ が“姓姜的”をそれぞれ指し示している。(3)は、登場人物が3人以上でゼロ照応が使われる例外的な例であるが、どれも隣接する節に現れたものを指しているため、許されたと考えられる。

次に、ゼロ照応と三人称代名詞主語の使用状況を比較しながら見てみよう。表1から、登場人物の数別におけるゼロ照応、三人称代名詞照応の出現回数と割合が分かる。登場人物が1人である場合、ゼロ照応は217例で全体の約8割強を占めているのに対して、三人称代名詞照応は僅か65例で全体の2割しかない。このことは、(2)のように、登場人物が1人であれば、明示的三人称代名詞がなくても、指示対象の同定に曖昧性が生じにくいいため、ゼロ照応が積極的に用いられるからだと考えられる。また、この現象は「簡潔に言う」というGriceの「会話の原理」とも一致する。一方、登場人物が2人である場合、ゼロ照応が90例で全体の3割しかないのに対して、三人称代名詞照応は162例で全体の6割以上を占めている。このことは、(4)のように、登場人物が2人であれば、情報の曖昧性や誤解が生じやすいため、三人称代名詞主語は省略されずに明示的に出現するからだと考えられる。

(4) 范柳原真心喜欢她吗? 那倒也不见得。他对她说的那些话, 她一句也不相信。她看得出他是对女人说惯了谎的。她不能不当心—她是个六亲无靠的人。她只有她自己了。

(それでは范柳原は本当に流蘇を好きなのだろうか。必ずしもそうではあるまい。彼が自分にいった言葉を、流蘇はひとつとして信じてはいない。彼が女に嘘をつきなれているのはわかっている。用心深くならざるをえない—頼りになる身内のいない流蘇には、信じられるのは自分しかないのだから。)

引き続き登場人物が3人以上の場合を見てみよう。登場人物1人と2人の場合に比べると、ゼロ照応も三人称代名詞も使用回数が大幅に減っている。(5)では、登場人物は“徐太太”、“白公馆里(的人)”、“宝络”、“姓范的”、“徐先生”の5人である。照応が非常に複雑であり、誤解を招かないように、ゼロ照応主語と三人称代名詞主語が使用されず、固有名詞主語が頻繁に用いられている。

- (5) 徐太太走了之后，白公馆里少不得将她的建议加以研究和分析。徐太太打算替宝络做媒说给一个姓范的，那人最近和徐先生在矿务上有相当密切的联络，徐太太对于他的家世一向就很熟悉，认为绝对可靠。

(徐夫人が帰ったあと、白家の屋敷で夫人のもってきた話の吟味が行われたのは言うまでもない。徐夫人は宝絡を范という男にとりもつつもりだ。その男は最近徐氏と鉱山の仕事のことでかなり密接な連絡がある。徐夫人は前から男の家のことをよく知っていて、絶対信用できると言う。)

以上、登場人物の数別におけるゼロ照応と三人称代名詞照応の使用状況を比較しながら、両者の違いと特徴を考察してみた。その結果、登場人物が1人である場合の節頭主語は、ゼロ照応が好んで用いられる傾向があるのに対して、登場人物が2人である場合の節頭主語は、三人称代名詞が好んで用いられる傾向がある。また、登場人物が3人以上の場合では、ゼロ照応も三人称代名詞もあまり使用されない傾向がある、ということが分かる。

ところが、面白いことに、(6)のように、登場人物が“流苏”1人のみの場面においても、三人称代名詞主語“她”が10回用いられている例もあった。

- (6) 流苏到处瞧了一遍，到一处开一处的灯。客室里的门窗上的绿漆还没干，她用食指摸着试了一试，然后把那粘粘的指尖贴在墙上，一贴一个绿迹子。为什么不？这又不犯法！这是她的家！她笑了，索性在那蒲公英黄的粉墙上打了一个鲜明的绿手印。

她摇摇晃晃走到隔壁屋里去。空房，一间又一间—清空的世界。她觉得她可以飞到天花板上。她在空荡荡的地板上行走，就像是在洁白纤尘的天花板上。房间太空了，她不能不用灯光来装满它，光还是不够，

明天她得记着换上几只较强的灯泡。

她走上楼去。空得好！她急需绝对的静寂。她累得很，取悦于柳原是太吃力的事……

(流蘇は家のなかを隈なく見て歩き、ひと部屋ごとにあかりをつけた。客間のドアや窓の緑のペンキはまだ生乾きのままで、彼女が人差し指で触ってから、そのべたついた指先を壁につけると、くっきりと緑色の跡ができた。なにがいけないの？ なにも法を犯しているわけじゃない。ここは自分の家なんだから。流蘇は笑って、タンポポ色の壁の上に思いきりよく鮮やかな緑の手形を作った。

流蘇はふらふらと隣の部屋へ歩いて行く。空っぽの部屋がひとつ、またひとつ—空のみの世界。流蘇は、自分が天井まで飛べるような気がした。そうしてなにもない床の上を歩く。まるで塵ひとつない天井板の上を歩くようだ。あまりにも空っぽの部屋、部屋。流蘇はそれらをあかりで満たさずにはいられない。それでも光が足りなくて、明日は忘れずにもう少し明るい電灯に替えなければと思う。

流蘇は階段を上がって行く。空っぽなのはよいことだ。彼女はすぐにでも絶対的な静寂を必要としている。たいそう疲れていた。柳原の機嫌をとるのはひどく骨がおれる。)

ここで、全ての主語“她”を非明示的に（ゼロ照応）替えてみると、(7)のようになる。

(7) 流蘇到处瞧了一遍，到一处开一处的灯。客室里的门窗上的绿漆还没干，用食指摸着试了一试，然后把那粘粘的指尖贴在墙上，一贴一个绿迹子。为什么不？这又不犯法！这是她的家！笑了，索性在那蒲公英黄的粉墙上打了一个鲜明的绿手印。

摇摇晃晃走到隔壁屋里去。空房，一间又一间—清空的世界。觉得她可以飞到天花板上。在空荡荡的地板上行走，就像是在洁无纤尘的天花板上。房间太空了，不能不用灯光来装满它，光还是不够，明天得记着换上几只较强的灯泡。

走上楼去。空得好！急需绝对的静寂。累得很，取悦于柳原是太吃力的事……

(6)と(7)を比較すると、(7)では、前後の文の内容的つながりが非常に弱く、意味のまとまりがある完全なテキストと見なすことができないのが分かる。その理由として、登場人物が1人であっても、前後の文の間に内容的つながりが弱く、その内容的つながりが維持できないということが挙げられる。その場合に三人称代名詞が好んで使用される傾向があると考えられる。すなわち、明示的三人称代名詞主語は、場合によって、先行文と後続文を結合させる一種の接続表現としての働きがあると言えよう。この事実から考えると、中国語では前後の文の内容的結束性が強い場合は、ゼロ照応が用いられやすい。それに比べて、前後の文の内容的結束性が弱い場合は、テキストを結束する力がより強い三人称代名詞の方が用いられやすい、という結論を得られる。この結論を用いて、もう一度例文(6)と(2)を見てみよう。(6)も(2)も同じく登場人物が1人のみであるが、ゼロ照応が頻繁に使われている(2)に対して、(6)には三人称代名詞が頻繁に使われている。それは、(2)には、“流苏便忙着整理行装（流蘇はあわてて旅行の準備にとりかかった）”というような内容を総括する文が存在し、ゼロ照応が使われている後続文はその説明になっており、文同士の内容的結束性が非常に強いからである。一方の(6)には、(2)のような総括する文がなく、後続文がどのような展開になるかが分からない文の連続となっており、文同士の内容的結束性が非常に弱い、という理由が窺える。

3.2.2 明示的先行詞との距離値に見られるゼロ照応の連続性

本節では、テキストの結束性と節頭主語のゼロ照応の關係に着目し、明示的主語である先行詞との距離という角度で考察する。分析の便宜上、明示的先行詞がある節とゼロ照応の節とが隣同士である場合の距離値を0、1節離れる場合の距離値を1、2節以上離れる場合の距離値を ≥ 2 、と記す。また、先行詞に関しては、明示的主語のみとしており、非明示的主語（ゼロ照応）を含まない。(8)では、明示的先行詞“流苏”に対して、ゼロ照応 \emptyset_1 の距離値は0であり、 \emptyset_2 の距離値は1であり、 \emptyset_3 の距離値は2である。

(8) 流蘇一念及此, \emptyset_1 不覚咬了咬牙, \emptyset_2 恨了一声。 \emptyset_3 面子上仍旧照常跟他敷衍着。

(そう思い至ると、流蘇は思わず歯ぎしりし、怒りの声をもらした。だがうわべはいままでどおり柳原とうまくやっていた。)

明示的先行詞との距離値別に、『傾城の恋』に使用されているゼロ照応主語および三人称代名詞主語の使用状況は、表2に示す通りである。

まず使用されたゼロ照応の数を明示的先行詞主語との距離値別に見ると、それぞれ距離値が0の場合は198例、距離値が1の場合は83例、距離値が ≥ 2 の場合は74例である。この事実から、明示的先行詞主語とのつながりの距離が近いほど、先行詞のゼロ照応が用いられやすい。反対に、明示的先行詞主語との距離が遠いほどゼロ照応が用いられにくい、ということが分かる。

次に、ゼロ照応主語と三人称代名詞主語の使用状況を比較しながら見てみよう。表2から、明示的先行詞との距離値におけるゼロ照応、三人称代名詞照応の出現回数とそれぞれの割合が分かる。距離値が0と1である場合、ゼロ照応はそれぞれ198例と83例で全体の約8割と6割を占めているのに対して、三人称代名詞主語はそれぞれ50例と55例で全体の僅か2割と3割しかない。一方、距離値が ≥ 2 の場合になると、ゼロ照応の使用回数が大幅に減り、三人称代名詞の163例（全体の約7割）に対して僅か74例（全体の3割）しかないという逆転現象が起きている。この数字から、明示的先行詞主語に対して、ゼロ照応の使用可能な距離が短く、三人称代名詞の方の使用可能距離が長いことが分か

表2 明示的先行詞との距離値から見るゼロ照応と三人称代名詞照応の使用状況

	距離値=0	距離値=1	距離値 ≥ 2
ゼロ照応の数 (%)	198 (79.8%)	83 (60.1%)	74 (31.2%)
三人称代名詞主語の数 (%)	50 (20.2%)	55 (39.9%)	163 (68.8%)
合計 (%)	248 (100%)	138 (100%)	237 (100%)

る。

- (9) 她梳洗完了, \emptyset_1 刚跨出房门, 一个守候在外面的仆欧, \emptyset_2 看见了她, \emptyset_3 便去敲范柳原的门。

(身支度を整えてドアから一步踏み出したとたん、外で待ち受けていたボーイが范柳原のドアをノックした。)

- (10) 四奶奶答应着, \emptyset 一面叫喊道:“来人哪! 开灯!”

(四奥様はうなずきながら、大声で呼んだ。「誰かいないの? あかりをつけておくれ」)

上述した通り、(9)と(10)のように短い距離のゼロ照応は最も頻繁に見られる。ただし、(11)のように、明示的先行詞主語に対してゼロ照応が連続して使える場合も見られる。

- (11) 这天晚上, 她回到房里来的时候, 已经两点钟了。 \emptyset_1 在浴室里晚妆既毕, \emptyset_2 熄了灯出来, \emptyset_3 方才记起了, 她房里的电灯开关装置在床头, \emptyset_4 只得摸着黑过来, \emptyset_5 一脚踩在地板上的一只皮鞋上, \emptyset_6 差一点栽了一交, \emptyset_7 正怪自己疏忽, \emptyset_8 没把鞋子收好, 床上忽然有人笑道:“别吓着了! 是我的鞋。”

(その晩、流蘇が部屋に戻ったのは、すでに二時をまわってからだった。浴室で身支度をすませ、あかりを消して出て来たあとで、思い出した。その部屋の電灯のスイッチはベッドの頭のところにあるのだ。仕方なしに闇のなかを手探りで近づいていくうち、床にあった革靴を踏みつけて、もう少しでころびそうになった。靴を片づけなかった自分のかつさを責めていると、とつぜんベッドの上で笑い声がした。「そんなに怒らないで。靴は僕のですよ」)

(11)の場合では、 $\emptyset_2 \sim \emptyset_8$ は先行詞主語“她”を指し示しており、明示的先行詞主語との距離値が ≥ 2 である。それほど遠い距離なのにゼロ照応表現が用いられるのは、3.2.1で述べた登場人物が1人であるという理由の他、この場面で登場する人物に対する客観叙述であることも考えられる。書き手は、その場面の客観記述が長い場合や描写が詳しい場合、ゼロ照応を連続して使用することに

よって、生き生きとしたリアルな感じを与えていると思われる。

以上は、三人称代名詞との比較を行いながら、ゼロ照応と明示的先行詞主語との距離を考察することを通して、節頭主語ゼロ照応の特徴を分析した。その結果、明示的先行詞との距離が近いほど、ゼロ照応が使用される可能性は高く、反対に先行詞との距離が遠いほど、三人称代名詞が使用される可能性は高いことが分かった。言い換えれば、明示的先行詞主語に対して、ゼロ照応の使用可能な距離は短く、三人称代名詞の使用可能な距離は長いのである。

4. おわりに

本稿では、中国語の節頭主語に現れたゼロ照応の機能を明らかにするため、小説『傾城の恋』に使用されたゼロ照応と三人称代名詞との比較を通して、それぞれ登場人物の数、および明示的先行詞との距離値に見られるゼロ照応の振る舞いについて考察を行った。

まず、登場人物の数別に見られるゼロ照応の振る舞いに関しては、登場人物が1人である場合はゼロ照応、登場人物が2人である場合は三人称代名詞がそれぞれ好んで使用され、登場人物が3人以上である場合はゼロ照応も三人称代名詞もあまり使用されない、という傾向が見られたので、先行研究とあまり変わらない結果となった。その一方、登場人物が1人のみであっても、前後の文の内容的つながりが弱い場合には、ゼロ照応より三人称代名詞が好んで使用されるという傾向が見られたことから、中国語ではゼロ照応より三人称代名詞の方がテキストを結束する力はより強い、という結論に至った。この点は先行研究と違うとも言えるだろう。

次に、ゼロ照応と明示的先行詞との距離に見られるゼロ照応の振る舞いに関しては、距離値が0の場合（ゼロ照応節と先行詞節は隣接）は、ゼロ照応の使用頻度が最も高く、その次は距離値が1（1節が離れる）、距離値が ≥ 2 （2節以上が離れる）の順になる。よって、照応詞と明示的先行詞との距離が近いほど、ゼロ照応が好んで使用されるということが言えよう。この結果も、三人称代名詞の方が、テキストを結束する力が強いという結論を支持する。

今後の課題としては、節頭主語に現れたゼロ照応の機能にその他の要素も絡んでいる点を視野に入れて、中国語と同じようにゼロ照応を許しやすい日本語と比較することでより深く探りたい。

〈注〉

- 1) 本稿で取り上げるゼロ照応は、結束性を持たない「外界照応」を含まない。
- 2) 中国語における三人称代名詞について、本稿では、“他（彼）”、“她（彼女）”、及びその複数形“他们（彼たち）”、“她们（彼女たち）”を指す。また、本稿では、名詞による照応表現（人名等）を研究対象としない。
- 3) 「節（clause）」は中国語で言うところの“分句/小句”である。
- 4) 中国語タイトル《倾城之恋》、《张爱玲文集》广西民族出版社2002。
なお、本稿における用例の和訳は、『傾城の恋』（池上貞子訳、平凡社1995）より引用したものである。
- 5) 本稿における「登場人物」については、先行節においてどのような文法成分として出現しても「登場人物」と数える。
- 6) \emptyset_{cs} は“姓姜的/他被”である、と考える。
- 7) 非対格動詞“丢”があるので無主語文であるという考え方もあるだろうが、本稿では、“丢下”は“丢”と性質が異なると考える。

参考文献

- 陈平1987 〈汉语零形回指的话语分析〉《中国语文》第5期
宋柔1992 〈汉语叙述文中的小句前部省略现象初析〉《中文信息学报》1992(3)
王德亮2005 〈汉语零形回指解析—基于向心理论的研究〉《语言文字学》第2期
徐赳赳2003 《现代汉语篇章回指研究》中国社会科学出版社
殷国光他2009 《左传》篇章零形回指研究—以隐公为例《语文研究》2009(3)
今井敬子1992 「ゼロ照応」の日中対照：主題化との関連で『信州大学教養部紀要.26』
1992
柴田奈津美2013 「日中対照実験からみる代名詞主語とその省略」『言語情報科学』

2013

Halliday&Hasan1976 『Cohesion in English. Longman (テキストはどのように構成されるか——言語の結束性)』 安藤貞雄他訳、ひつじ書房

Halliday1994 『機能文法概説—ハリデー理論への誘い』 山口登・笈壽雄訳、くろしお出版